

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
5	5

2. 法律学科 アドミッション・ポリシー

法律学科は、現実の社会において発生する様々な問題について論理的かつ合理的に考えることができる法的思考能力（リーガル・マインド）を持ち、さらにその能力をもちいて、これらの問題に対して柔軟かつ適切な解決策を導き出すことができる人材の育成を目指しています。

そのため、特に以下の点について、十分な適性と意欲を持った志願者を求めます。

1. 社会の動きに広く関心を持っている人物。
2. 物事を柔軟かつ論理的に考え、それを的確に表現できる人物。
3. 高い志と正義感、忍耐力を有する人物。

A O型入学試験では、志願者の自己推薦ポイント（人間性、活動実績、将来への夢・希望など）が、これから法律学科で学んでいく上でどのような意義をもつかを、みなさん自身の言葉で明確に表現できることが望まれます。

3. 出題の意図

法律学科は、上記の通り、現実の世の中の動きに広く関心を持ち、様々な社会問題に対する自己の意見を論理的な思考に基づいて的確に表現できる人物を求めています。

小論文では、論理的な思考力・表現力（文章力）が問われるのはもちろんですが、プラスチックごみによる海洋汚染という、現在進行形のテーマにすることで、何が問題であるかとともに、解決策についてどのような議論があるのかについて日常的に関心をもっているかが問われます。また、体育・スポーツ以外のテーマの出題により、環境問題を含む多様な社会問題への関心および知識の程度が読み取れると考えます。

さらに、レジ袋やストローの利用規制に関わる身近なテーマですが、それを自分ごとであると同時に世界的な課題として論ずるためには、柔軟かつ的確な論理性、思考力、想像力も試されます。

以上のような出題をすることは、法律学科のアドミッション・ポリシーに適合する人物を見出すことに資すると考えます。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特にありません。

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
5	5

2. 地域行政学科 アドミッション・ポリシー

本学科では、入学者に対して、高校卒業程度の基礎学力を身につけていることに加えて、特に以下の点について適性と意欲を持っていることを望みます。

1. 地域社会の出来事から、広く世界の情勢にまで関心を持ち、常に問題の本質を見極めようと努力する人物。
2. 何事に関しても、しっかりとした自分自身の考え方を育てるように学習し、同時に、他者との意見交換を通して、議論を建設的に発展させ、異なる考え方からも学ぼうと努力する人物。
3. 将来、自ら選んだ職業を通して地域に貢献することを希望し、それへ向けての努力を厭わない人物。

地域行政学科は、行政・民間部門において政策を企画・立案し、実務に対応できる人材、より深い見識と広い視野を身につけ、地域社会の発展に貢献できるような人材の育成を目指します。

特に A O 型入学試験において、私たちは高い志を有し、地域や社会の動きに目を向け、行動力を有する情熱ある志願者を求めます。

これまでの勉強や部活動で得たもの、あるいはこれからの夢を、自分の言葉で表現できる能力を高く評価します。

3. 出題の意図

来年の東京五輪・パラリンピックの開催に向けて政府は勿論のこと、東京都をはじめ福島など競技開催の自治体は目下、その準備に取り組んでいるところである。特に、今年から沖縄の空手も正式種目になり、同時に、好成績も期待されているところである。

各スポーツ団体はオリンピックもパラリンピックも代表選手を決める大会が目白押しである。各種目の競技力の向上にもいい影響を与えることは間違いない。わが国では 1964 年に開催されて以来 56 年ぶりである。このようなオリンピック・パラリンピックが開催され、メディアでも大きく取り上げられているが、スポーツマンの受験生は、その意義をどのように考えているかを問う出題である。

同時に、聖火ランナーが二日間にわたって沖縄各地を駆け巡ることは、オリンピック・パラリンピックを盛り上げることは言うまでもないが、聖火ランナーが地域を走ることによって沖縄の平和、歴史、文化、自然地理的条件等を国内外にメディアを通して大きく発信することは有益である。スタート地点の首里城公園は沖縄の歴史が他府県と大きく違うことを考えさせる。最終地点の平和記念公園から平和を全国に発信する大きな力がある。このように、それぞれの出発地点の意義を受験生がどの程度、理解しているかを問う問題である。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

この設問は日ごろ新聞をよく読んでいれば、決して難しい問題ではない。オリンピック・パラリンピックの意義、聖火ランナーの効果も決して丸暗記して答えることは期待していない。与えられた設問にどのような視点、角度から論理的に答えることができるかを問うものである。「沖縄タイムス」の記事から聖火ランナーのコースを引用しているが、コースは県の関連ホームページのほうが引用としては相応しい。ところが、あえて地元の新聞にしたのは、入試問題に新聞が活用されていたことを知ることによって受験生が新聞を読む習慣になることも期待している。新聞を読むことは文章力、語彙力を鍛えることになり、大学入学後も就職試験の際にも大いに役立つので新聞を出題に活用している。

2020 年度 推薦入学試験（体育推薦） 経済学部 経済学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
11	7

2. 経済学科 アドミッション・ポリシー

経済学科は、社会経済における諸問題に、目的意識を持ち意欲的に取り組む人材の育成に努めています。そのために、以下のような志願者を求めます。

1. 高等学校卒業程度の基礎学力を有する人物。
2. 経済・社会を含めた諸問題に関心がある人物。

A O型入学試験では上記に加えて、経済・社会を含めた諸問題に強い関心を持ち、何らかの解決策を導き出すための「想像力・創造力・表現力」を有する人物を求めます。

3. 出題の意図

経済学科のアドミッション・ポリシーには、「1. 高等学校卒業程度の基礎学力を有する人物。2. 経済・社会を含めた諸問題に関心がある人物」と記されている。このアドミッションポリシーは、体育推薦入試を受験する受験生にも共通して求められる。そのため、日常の部活動を通して「経済・社会を含めた諸問題」に関心を抱いていなければならない。つまり、部活動で優れた成績を残すための努力のみならず、高校で受ける授業と部活動を結びつけて経済や社会で生じている問題を意識してもらいたい。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

評価としては、問題の趣旨を踏まえ社会への関心がどの程度備えられているのか、また表現内容及び制限字数以内にまとめる能力などを評価する。

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
10	6

2. 地域環境政策学科 アドミッション・ポリシー

地域環境政策学科では、経済の視点から地域と環境を考えることを通して、環境に配慮しながら地域経済の発展に貢献し、持続可能な社会を創造できる人材の育成を目指しています。そこで、本学科では、次の①～⑤について自らの言葉で説明できる志願者を求めています。

- ① 沖縄及び世界の経済や環境に広く関心がある人
- ② 沖縄地域の経済や環境を含めた、沖縄の過去・現在・未来に関心がある人
- ③ 様々なフィールド（現場）に出て、積極的に活動することが好きな人
- ④ 社会で起きている様々な事柄に関心を持ち、地域社会及び世界へ貢献したいという熱意のある人
- ⑤ 大学の授業に耐えうる基礎学力を有し、勉学に対する意欲がある人

特にAO型入学試験では、一般試験だけでは測ることが難しい多様な資質を有する学生を受け入れるため、コミュニケーション能力が高く、上記の①～⑤について自らの言葉で表現でき、学内外の活動に積極的に取り組んだ実績があり、それらの活動が、本学科で学ぶ上でどのような意味を持つのかを説明できる志願者を求めます。

3. 出題の意図

出題の意図は地域環境政策学科が求めている経済と環境に関する幅広い知識を持つ学生に成りうる受験生であるかを見るために、近年大きな環境問題となっている化石燃料の消費に伴う二酸化炭素の排出による各種影響と、その解決策として期待されている再生可能エネルギーについての問題となっています。解答するにあたって経済的な側面も含めて幅広い知識を有しているか、そして論述出来るかを評価します。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

問題にあるキーワード（例えば、二酸化炭素による影響、再生可能エネルギー）について例を挙げて説明するとともに両者の関係、並びに環境や経済との関連性について論述出来ることが望ましいです。

2020 年度 推薦入学試験（体育推薦） 産業情報学部 企業システム学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
5	4

2. 企業システム学科 アドミッション・ポリシー

企業システム学科では、情報化、国際化の進展の中、多様なビジネス活動に対応できる人材の育成を目指し、「マーケティング」「経営」「会計」の 3 分野を柱に専門的、体系的に学んでいきます。よって、本学科では以下のような志願者を求めます。

1. 基礎的な教養を身につけ、自分自身のスキルや能力を鍛える意志を持っている人物。
2. 企業システム学科で学びたい事を自覚し、表現できる人物。
3. 大学卒業後のビジョンを抱き、地域・国際社会に貢献する意欲を有する人物。

さらに、学力だけでは計れない多様な資質を有する学生を A O 型入学試験によって受け入れ、その資質を開花させるために必要な教育を通して将来のビジネス社会で活躍できる人材育成を行います。

A O 型入学試験では、特に、次のような志願者を求めます。

- ① 他者に誇れる活動や実績等を有している人物。
- ② 企業システム学科で学びたい事を明確にアピールできる人物。
- ③ 大学卒業後のビジョンを抱き、自己研鑽ができる人物。

3. 出題の意図

出題の意図は、受験生がビジネス分野を専門とする上で、必要な能力をどの程度持っているのか確認することにある。企業システム学科では、情報化、国際化の進展の中、多様なビジネス活動に対応できる人材の育成を目指しているため、国内ビジネスおよび国際ビジネス環境で起こっていることに対し、自分なりの情報収集および分析ができるか、また、提示された課題（例、消費者間の CtoC ビジネスなど）を議論する理解力、表現力を有しているかどうかを見ようとするものである。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし。

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
6	3

2. 産業情報学科 アドミッション・ポリシー

1. 将来の具体的なビジョンを描き、自己研鑽できる人物。
2. 情報科学や産業・経済に興味があり、産業情報学科で学びたいことを明確に持ち、意欲的・主体的に勉学に励むことのできる人物。

A O型入学試験のアドミッション・ポリシー

産業情報学科では産業社会(経済・金融・企業経営など)の基本的なしくみと情報技術について学び、経済活動や日常生活と情報技術の深い結びつきを理解することで、個人が地域社会において果たすべき役割について認識を深めます。

理論と実践が融合したカリキュラムにより、あらゆる産業分野において情報化を推進する「産業の情報化」、情報技術を基に企業や産業の創出・発展を企画し実行する「情報の産業化」が担える人材の輩出を目標としています。

また、学力だけでは計れない多様な資質を有する学生をA O型入学試験によって受け入れ、個性に柔軟に対応した教育を行い、多元的な社会で活躍できる人材を育成します。

A O型入学試験では、特に、次のような志願者を求めます。

- ① 他者に誇れる活動を行った、あるいは行っている人
- ② 産業情報学科で学びたい事を明確にアピールできる人
- ③ 大学卒業後の具体的なビジョンを描き、自己研鑽できる人

3. 出題の意図

2020年度の小論文試験は、以下の出題意図に基づいている。

- ① 社会の発展と情報技術の活用について関心を持ち、基本的な知識を有しているか。
- ② 出題された設問に対して、論理を組み立てる思考力、自分の意見の論拠を示して明瞭に表現できるか。
- ③ 大学入学後に学ぶ知識を、自らのスポーツ活動や社会的課題解決に活かそうとする意欲を有しているか。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

産業情報学科では、アドミッション・ポリシーの通り、情報科学と産業・経済に興味があり自己研磨ができる人物を求めています。今回の小論文試験では、出題の意図①～③に加えて、論理展開に無理はないか、語句の用法に誤りはないか、指定された文字数でまとめているかを評価しました。

日頃から新聞などを読む習慣を身につけ、産業社会、日常生活、情報技術等の課題に加えて、新たな取り組みと活用について興味を持つようにして下さい。また、自分はどう考えるか、できることは他にもあるのでは、他にも活用できるのでは、といった視点を持つことも大切です。さらに、小論文試験対策としては、時間的な制約と文字数の指定を踏まえた、書く練習をすることもお勧めします。

1. 実施状況志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
1	1

2. 日本文化学科 アドミッション・ポリシー

日本文化学科は、日本文化及び琉球文化への造詣を深めることを教育上の目的としています。具体的には、言語学・文学を中心とする理論的、かつ実践的な教育を通して、国際社会、情報社会、地域社会の中で自己の役割を深く認識し、生き生きと実践できる人材、そして、豊かな知性、分析力、情報処理能力、表現力、コミュニケーション能力、共生能力を備えた人材を育てていきます。

日本文化学科は、以上の学科の教育目標と沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーに照らし、次のような志願者を求めます。

1. 言語学・文学を中心とする日本文化及び琉球文化、またグローバル時代に求められる多様なコミュニケーションについて主体的に学ぼうとする意欲・関心をもつ人
2. 1.の学びを深めるための基礎学力をもつ人
3. 地域社会、国際社会、多文化社会、高度情報社会の中で生じるさまざまな課題を解決するために必要となる、基礎的な思考力・判断力・表現力(読解力を含む)を身につけている人

特に、AO型入学試験では、上記の3項目に加えて、以下のような能力・意欲と基本的な学習習慣をもった志願者を求めます。

- ① 批評・創作を含む広い意味での表現活動、知的好奇心を深める豊かな読書活動、琉球文化の継承発展に関する活動、国際交流活動などの領域で優れた実績を上げ、大学生活の中で、さらに深めようとする人。
- ② 国語科教員、日本語科教員、図書館司書(学校司書を含む)、司書教諭などの当学科の専門領域に関わる職業に深い関心を持ち、それを通じて社会貢献を目指す人。
- ③ ボランティア活動、課外活動(スポーツ、文化活動ほか) などを通して、広い視野(多様性)やコミュニケーション能力を備え、大学での学びに生かそうとする人。

3. 出題の意図

【問1】は、日本文化学科のアドミッション・ポリシー1.にある「言語」や「コミュニケーション」をテーマとする小論文問題、【問題2】は、日本文化学科への入学後の学びについてどのような意欲・関心・将来目標をもっているかを説明してもらうための小論文問題となっています。

また、【問1】、【問2】とも、アドミッション・ポリシーの3.にある「基礎的な思考力・判断力・表現力(読解力を含む)を身につけている」かどうか、具体的には、大学に入学する上で必要となる文章構成力と論理性、表現力(語彙力、分かりやすさ)の修得状況を評価するための問題となっています。

なお、【問2】については、昨年度の体育推薦試験も同様の形式の問題を出題しましたが、今年度試験ではAO型入試に特化したポリシー部分は問題文から削除し、全入試に共通する部分のみを問題文には掲載したため、設問には「将来目標やその社会的意義にも触れながら」論述するよう付記しています。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

【問1】については、スポーツに力を注いだ人だからこそ発見できる、ことばの大切さという面に注目して、自身がそのことばから受けた影響を論理的に、また豊富で分かりやすい表現で説明されている小論文を高く評価しました。具体的には、①自分自身の意見とその論拠が適切に展開されているかどうか、②意見を支えるための具体的な論拠(エピソード)が示されているかどうか、③語彙力が高いかどうか、④既定の文字数に達しているかどうか、という4点を評価しています。

【問2】については、①日本文化学科への志願理由と将来目標を問題文にある条件をふまえて説明できているか(その内容が本学科のカリキュラムにマッチしているか)、という点をベースとして、②語彙力が高いかどうか、③既定の文字数に達しているかどうか、の2点を評価しています。なお、①については、学科面接試験の評価対象にも含まれているため、小論文試験の特性をふまえて、配点は②③をより大きくしています。

2020 年度 推薦入学試験（体育推薦）総合文化学部 英米言語文化学科「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
3	3

2. 英米言語文化学科 アドミッション・ポリシー

英米言語文化学科は、沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーおよび学科の教育目標に照らし、以下のような志願者を求めます。

1. チャレンジ精神と意欲に満ちた人物。
2. 英語力の向上に積極的に努力する人物。
3. 英語圏の言語や文化に強い関心を抱く人物。
4. 他者とのコミュニケーションを大切に、理想的な人間関係の構築に努力する人物。

英米言語文化学科は、言葉と人間との深いかかわりについて学び、言語や文化の多様性を理解することをモットーにして、世界の人々対話・交流するために必要な「真に国際的に通用する実践的な英語力」と、益々グローバル化する社会に対応できる「情報処理技術」を身につけた人材の育成を目指しています。

特に、AO型入学試験では、次のような学生を求めます。

- ① チャレンジ精神と意欲に満ちた人
- ② 地域や社会活動に関心のある人
- ③ 語学と異文化理解能力を身につけ、国内外で活躍したいという志を持った人
- ④ 英検 2 級程度の英語力のある人が望ましい

* 二次審査では、日本語による面談のほかに、英語による 5 分程度の面談も行います。

3. 出題の意図

英米言語文化学科は、世界の人々対話・交流するために必要な「真に国際的に通用する実践的な英語力」と、益々グローバル化する社会に対応できる「情報処理技術」を身につけた人材の育成を目指している。したがって、この学科の入学希望者には他者とのコミュニケーションを大切に、理想的な人間関係の構築と英語力の向上に積極的に努力する人物を求めている。

問題中の英文は、スマートフォンと思考力低下の関係について述べたものである。解答者には、英語の語彙力だけでなく、文章全体の構成や段落のつながりを理解し、それぞれの段落の要点を整理し、日本語で簡潔にまとめる力が求められる。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし。

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
7	5

2. 社会文化学科 アドミッション・ポリシー

社会文化学科は、沖縄国際大学の「アドミッション・ポリシー」を以下の通りに具体化し、「沖縄」と「人間」について学ぶ意欲と関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人材を求めます。

1. 沖縄を理解するための知的的好奇心と知的探求心をもつ人物。
2. 沖縄をとりまく世界の社会や文化の動きに深い興味と関心をもつ人物。
3. 沖縄をとりまく世界の問題と向き合うための基礎学力を有する人物。
4. 自らの問題意識のもと、フィールド(現場)に出て積極的に情報を集め考え判断し、主体的に行動することができる人物。
5. 国際交流・地域・ボランティア・文化・スポーツなど学内外の活動に主体性と協調性をもって取り組める人物。

A O型入学試験では、上記の5項目のうち、特に1、4、5の各項目を重視します。

具体的には、

○項目1については、「知的的好奇心」や「知的探求心」を、大学生活の中でどのように発揮しようと考えているのかを説明できることを求めます。

○項目4、5については、これまでの実績を具体的に説明できることを求めます。

3. 出題の意図

社会文化学科では、アドミッション・ポリシーにおいて、「社会や文化の動き」に興味と関心をもち、「問題意識のもと、(略)積極的に情報を集め考え判断する」ことができる人材を求めている。体育推薦入試の設問であることから、自身の専門競技を通して文化（アマチュアスポーツ）や社会（地域）への関心を問う内容とした。本課題は、自らが競技者として身を置く世界の情報をどれだけ収集しているか、文化としてのアマチュアスポーツをどのように理解しているか、競技を継続したことを活かしてどのように地域社会と関わるかを具体的に説明するよう求めている。入学希望者がそれに応えるためには、自らが身を置く世界の近年の動向を把握し、そのなかに自身の経験や見解を位置づけ直して解答することが求められる。また、重要視するポイントを説明するためには、主体的かつ的確に論点を見出すための思考力や判断力が必要とされる。それを小論文として課すことによって、入学希望者の思考力や表現力をはかり、本学科のアドミッション・ポリシーへの適合性を確認することが出題の意図である。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

評価のポイントは次の3点である。まず、設問の趣旨を正確に理解できているかどうかである。すなわち、前半の具体的な事例をあげることで、後半のアマチュアスポーツと地域および自身の関係についての見解を述べることを両立させ、重要視するポイントを提示することが必要である。次に、事例をあげる際、羅列するだけでなく、自分の言葉でその意味や特徴を説明しようとする必要がある。そして最後に、前半と後半を関連づけ、全体に整合性をもたせながら、論理的な展開を意識して見解を述べることが重要である。

1. 実施状況

志願者数・合格者数

①社会福祉専攻

志願者数	合格者数
3	3

②心理カウンセリング専攻

志願者数	合格者数
2	2

2. 人間福祉学科

①社会福祉専攻 アドミッション・ポリシー

社会福祉専攻では、以下のような志願者を求めています。

1. 将来、社会の各分野で社会福祉の専門家として働くことを強く希望し、その素質が十分あると認められる人物。
2. 社会福祉の分野に活かせる具体的な能力や技能を有し、大学での勉学や将来において活用が期待できる人物。
3. 将来、アジアや太平洋地域をはじめとする国際的な場における支援活動に参加することを熱望する人物。

上記に加えて、AO型入学試験では、以下のいずれかに該当する学生を歓迎します。

- 社会的マイノリティーの問題を自分の問題として考えられる人
- グローバルな視点をもつ人
- 知的探求心と批判的な思考力を培い、積極的に社会に参画したい人
- 他者の個性、多様性に寄り添い、他者と一緒に社会の状況を正しく認識し、問題解決のためのスキルを身につけたい人
- リーダーシップを発揮できる人。また、自分や他者を肯定的に捉えることができる人
- 他者と協調、共創するコミュニケーション能力を持つ人

②心理カウンセリング専攻 アドミッション・ポリシー

人間福祉学科心理カウンセリング専攻は、沖縄国際大学の「アドミッション・ポリシー」を以下の通り具現化し、人間のこころに関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人物を求めます。

1. 人間の「こころと行動」と「人と人とのつながり」について学ぶ意欲と関心を持つ人物。
2. 大学で学ぶことに強い意欲と関心を持ち、自ら学び、常に自己研鑽、自己成長に努める人物。
(自分を成長させようという意欲と態度を持つ人)
3. 人間のこころや行動の成り立ち、働きについて、心理学的な立場からの確に理解し、日常生活に実践的に応用したいという真摯な態度を持つ人物。

AO型入学試験では上記に加えて、

- ① 人間のこころについて科学的な視点（実験・調査・観察・統計など）から学ぶ意欲のある人
- ② これまでに意欲的に取り組んできた活動や得意分野が、大学で学びたいことに結びついている人を求めます。

3. 出題の意図

人間福祉学科では、国際的な視野を持ち、世界中で起こっていることを自らのこととして社会福祉・あるいは心理学の立場から考察して日常の実践に生かし、自らの成長や社会をよくすることにつなげることができる人物を求めています。

今回は特にオリンピック・パラリンピックが東京で開催される直前ということもあり、競技スポーツの「勝ち負けを争う・競う」という側面と社会福祉や心理学を受験生がそれぞれどのように自身の人生に落とし込んで具体的に考察し統合できているかを「競技スポーツの個人や社会への影響」という切り口から問う内容の小論文にしました。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

社会福祉・心理を生かしたいかなる現場でも、まずは相手の求めることを適切に理解し応答することが最も重要な課題となります。的を射た内容を準備できたら、相手が使いやすいように体裁を整えることも、案外おろそかにできない重要なポイントです。今回は、以下の点を基準として評価を行いました。

- ①字数、作文のルールなどの体裁が整っている。
- ②問題文に挙げられたオリンピック・パラリンピックを取り巻く動向および競技スポーツについて今日指摘されている問題点を理解している。
- ③上記について、社会福祉や心理学と結びつけて具体例を挙げながら考察できている。
- ④自身の競技人生にこの問題を重ね合わせ、社会福祉や心理学の観点から競技スポーツのメリット・デメリットを考察し、統合できている。